

滋賀県栗東市

# 下鈎遺跡発掘調査報告書 令和3年度1次調査

2022年（令和4）2月

栗東市教育委員会  
公益財団法人栗東市スポーツ協会



## 例　　言

- 1 本書は、滋賀県栗東市苅原83番、85番一部、86番一部において実施した、下鈎遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 調査は、現地調査を令和3年4月26日から令和3年6月18日まで、整理調査を令和3年4月26日から令和4年2月4日までの期間で実施した。
- 3 調査体制は、以下のとおりである。

調査主体	栗東市教育委員会事務局	教育長	福原 快俊
		教育部長	川崎 武徳
		教育部次長（兼スポーツ・文化振興課長）	片岡 豊裕
	スポーツ・文化振興課 文化財保護係	係 長	駒井 美香
		主 幹	雨森 智美
		主 査	藤岡 英礼
調査機関	公益財団法人栗東市スポーツ協会 事務局	会 長	竹村 健
		局 長	宮城 安治
	文化財調査課	課長補佐	近藤 広
		係 長	佐伯 英樹
		技 師	遠藤あゆむ
		技師補	末次由紀恵
		専門員	森 智美

- 5 現地及び整理調査への参加者は、以下の通りである。

調査補助員 小田 恵子 柴原 慶子 三浦 典江 山本明日香 横江 紘理  
谷口由香里 兵恵 志保 雨森 泰良 深草 清司 松本 里美  
小谷由記子 馬渕 敦子

整 理 員 神代 園子 宮嶋八重美 奥村 千絵 上原 久恵

- 6 本書の執筆は、第一章第一節を藤岡英礼が、ほかを遠藤あゆむが行った。編集は遠藤が担当した。

- 7 遺構写真及び遺物写真は遠藤が撮影した。

- 8 本書で使用した標高はT P（東京湾平均海面高度）である。

- 9 出土遺物や写真・図面については栗東市教育委員会（栗東市出土文化財センター）で保管している。本調査の調査管理番号は2021R095-01である。

# 第1章 はじめに

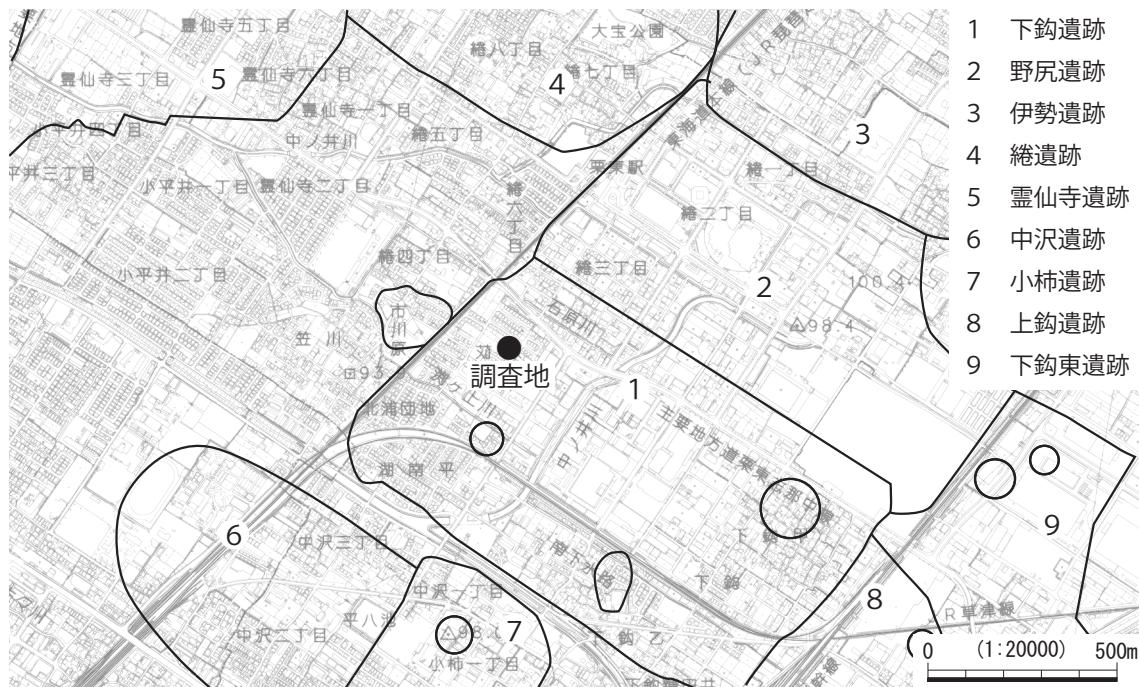
## 第1節 調査に至る経緯

栗東苅原83番・86番一部・140番1一部・140番10一部・141番2・143番2・145番2一部において、株式会社 東和不動産 代表取締役 林 周作氏により、分譲宅地造成工事が計画された。当該地は下鈎遺跡に位置する事から、令和2年12月23日付けで埋蔵文化財発掘届と調査依頼が提出された。これにより栗東市教育委員会が令和3年1月12日に試掘調査を実施した結果、古代のピットや旧河道が確認されたことから、発掘調査を実施することとなった。

現地発掘調査は栗東市教育委員会を調査主体に、公益財団法人栗東市スポーツ協会を調査機関として、令和3年4月26日から令和3年6月18日の期間で実施した。

## 第2節 位置と環境

下鈎遺跡は、琵琶湖へと流入する河川群が形成する扇状地の先端部に位置している。遺跡の南端には葉山川が流れ、近世東海道が遺跡範囲内を通る。今回の調査区近辺である苅原地域での調査では、弥生時代の遺構が多数見つかっており、布堀構造の大型建物（1992年栗東市調査）や、特殊棟持柱建物（1997年調査）、それらと時期を同じくする河川跡などが検出されている。河川埋土中からは銅環や銅鏃、水銀朱の付着した石杵など、特徴的な遺物が多数出土している。また、2010年に行われた隣接地での調査では、多数の掘立柱建物の他、周溝付建物、自然流路、大溝などが検出されている。中でも自然流路からは大型の槽づくりの琴が出土している。他に、2020年度には本調査地の隣接地で宅地建設に伴う道路部分の調査を行っており、方形周溝墓の一部とみられる溝を検出している。



第1図 調査地位置図

## 第2章 調査の成果

### 第1節 調査の方法

調査対象面積は約591.24m<sup>2</sup>で、現地調査は令和3年4月26日から開始した。重機による表土掘削を行い、遺構検出を開始。遺構検出状況の写真を撮影後、遺構の掘削及び作図、記録撮影を行った。遺構を掘削後、全景写真を撮影し、令和3年6月18日に現地調査を終了した。その後、出土遺物や図面、報告書作成などの整理調査を令和4年2月4日まで行った。

### 第2節 基本層序

調査区内の基本層序は、層厚40cmの耕土、その下に遺構検出面である黄褐色粘質土層に到達する。標高はおよそ95mである。

### 第3節 検出遺構・遺物

今回の調査区内での検出遺構及び遺物は少なく、2020年度調査の遺構密度と同程度である。主要遺構を下記に列挙する。

**S D 1 0** 調査区中央部付近で検出した。環状に巡る3条の溝の最も外縁部にあたり、調査部分で溝幅約0.6m、深さ約0.3m、溝内の最大径約15mを測る。埋土中には多量の土器片を包含する。後世の削平によって溝上部は削り取られた形跡があり、検出部西側の溝が断続している部分は、周囲の溝がなだらかに上がってくることから、削平によって遺構が失われたとみられる。溝上層に国産陶器が見られることから、一部後世の開発による混入がみられる。

**S D 1 1** S D 1 0より内側に位置し、幅約0.7m、深さ0.1mを測る。南側半分の溝延長部分は検出されなかった。

**S D 1 2** S D 1 1より内側に位置し、幅約0.6m、深さ0.2mを測る。S D 1 1と同じく南側半分の延長部分は検出されなかった。

**S D 1 3** 溝群の最内側に位置し、幅約0.5mから0.8m、深さ0.1mを測る。他の周溝とみられる溝と比べて、溝幅が安定せず、不定形となる。

**S B 2 1** 環状に巡る溝群の中心付近にピット群が検出された。柱間約2mを測り、方形を作ることから、建物支柱痕とみられる。周囲には他にピットが多数みられることと重複関係がみられることから、何度か柱の建て直しが行われたとみられる。

**S B 3 7** 調査区中央部で検出した。1間×2間の掘立柱建物で、梁行2.2m、桁行は1.2mから1.8m幅である。出土遺物が少なく、時期は不明である。

**S X 7 9** 調査区南西の道路脇部分で検出。堆積土にやや目の粗い砂が混じっていたことから、緩やかに落ち込んだ自然地形に、河川の氾濫等によって運ばれた土砂が堆積したものとみられる。

**出土土器** 溝群からは多数の遺物が出土したが、摩滅、細片が多く、実測に耐えうる土器点数はごく少数で、国産陶器の壺、土師器壺、受口状口縁甕、土師器高坏など出土した。

調査区南部で検出したS X 7 9からは、黒色土器片、白磁碗、銅製品が出土した。細片が多く、詳細は不明であるが、白磁碗から鎌倉時代に埋没したものとみられる。11は白磁碗である。12は

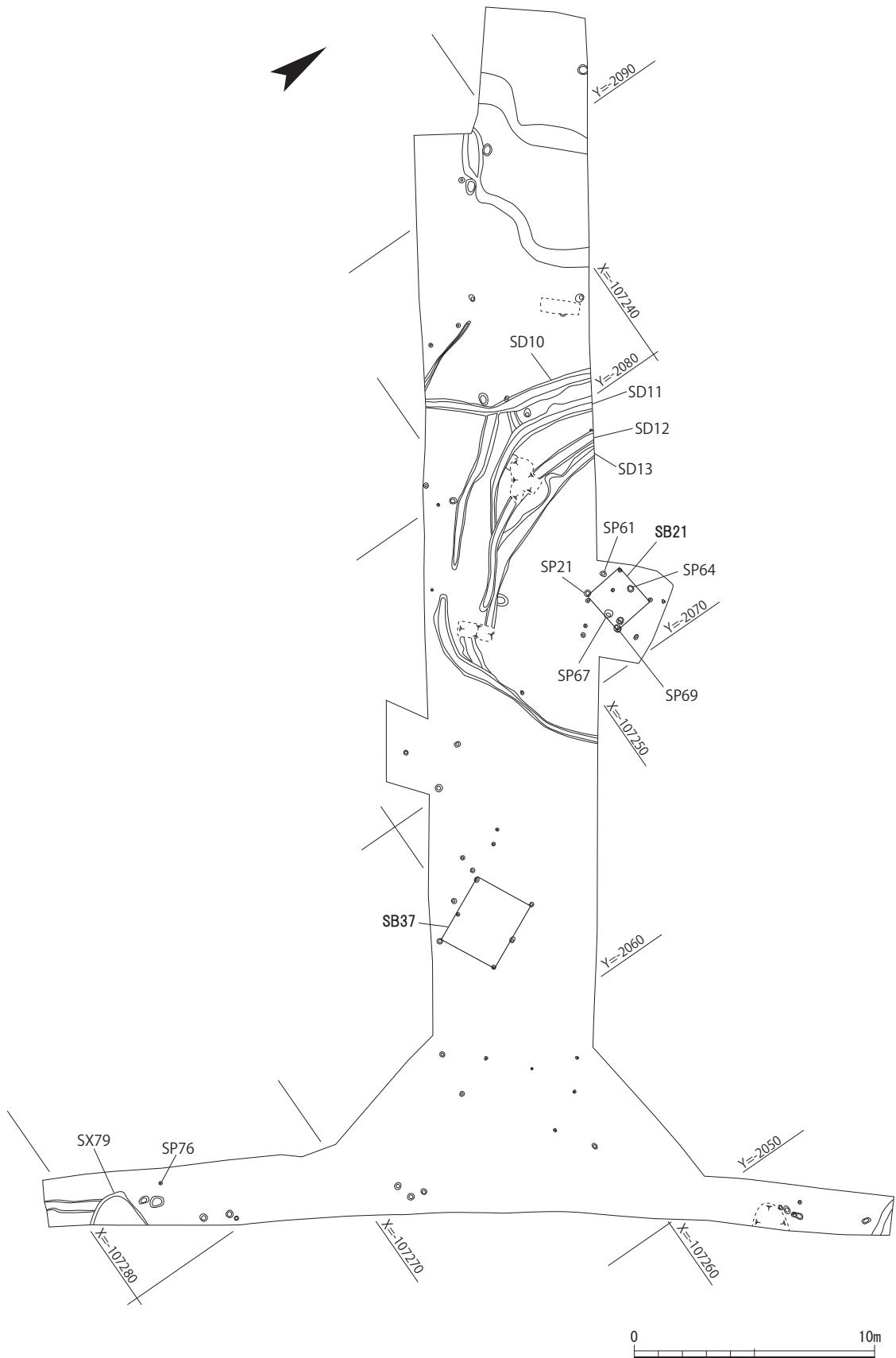
円形状の銅製品である。端部が内側に折れ込むように肥厚しており、全体が青銅で覆われている。表面裏面ともにこれといった文様がみられない。

## まとめ

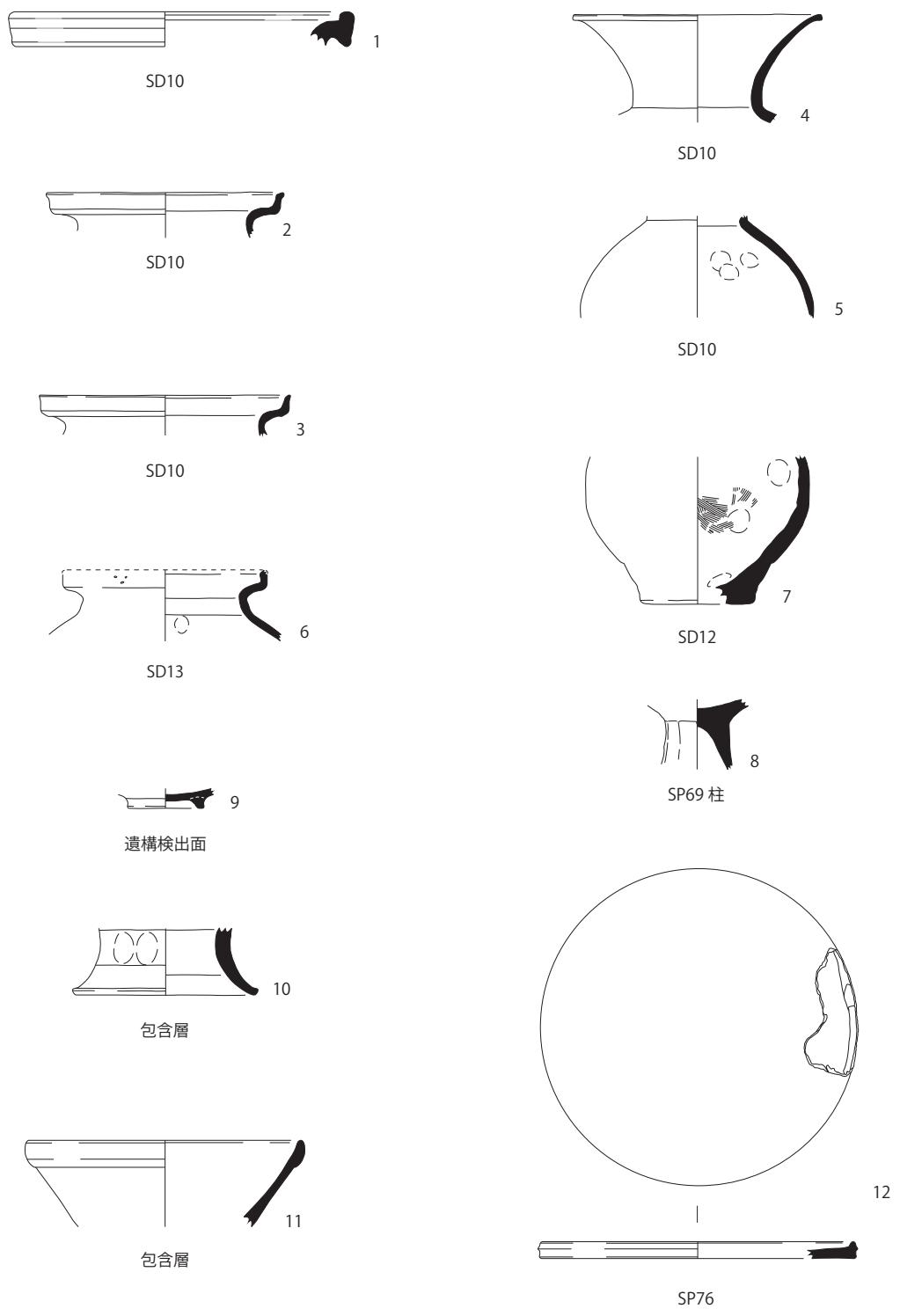
今回の調査は、隣接地で行われた2020年の調査と比較すると出土遺物、遺構とともに様相を同じくする。ただし、より北部に位置する前述の調査区でみられた中世以降の耕作溝が今回の調査では検出されていないことから、南部に向かうにつれて、後世の開発により削平を受けているものとみられる。溝内区画でみられるピットは、周溝付建物の柱痕とみられ、SD10からSD13は形状から建物に伴う周溝とみられる。どちらも切り合い関係がみられることから、同じ場所に何度も建物が建て替えられたことが伺える。また、今回の検出遺構の主たる時期である古墳時代前期以降の遺物は出土したものの少数で、かつ遺構は見つからないこと、耕作溝のみの検出であることから、調査区周辺は以後耕作地として活用されていたことが伺える。

2010年の調査でも同時期の遺構として周溝付建物群がみされることから、今回の調査区で検出した建物も同一集落のものとみられる。ただし、検出された周溝付建物はいずれもおおよそ東西方向に流れる自然流路より北側で検出されたものであるが、今回検出された周溝付建物は自然流路より南側で検出したことは一つ特徴として挙げられる。

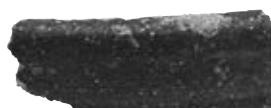
今回の調査区内で検出した周溝付建物も、遺構の時期的に2010年調査で見つかった集落の一部であると考えられる。今回の調査は、古墳時代前期頃の下鉤遺跡の集落遺跡の範囲内の建物の集中する様相がより判明したことが主たる成果であろう。



第2図 遺構平面図



第3図 出土遺物実測図



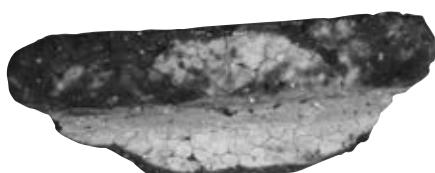
1



4



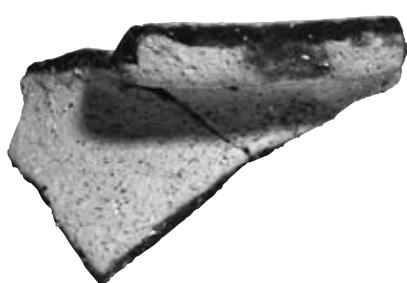
2



3



5



6



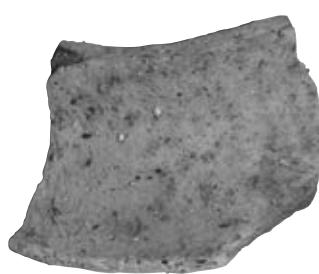
7



9



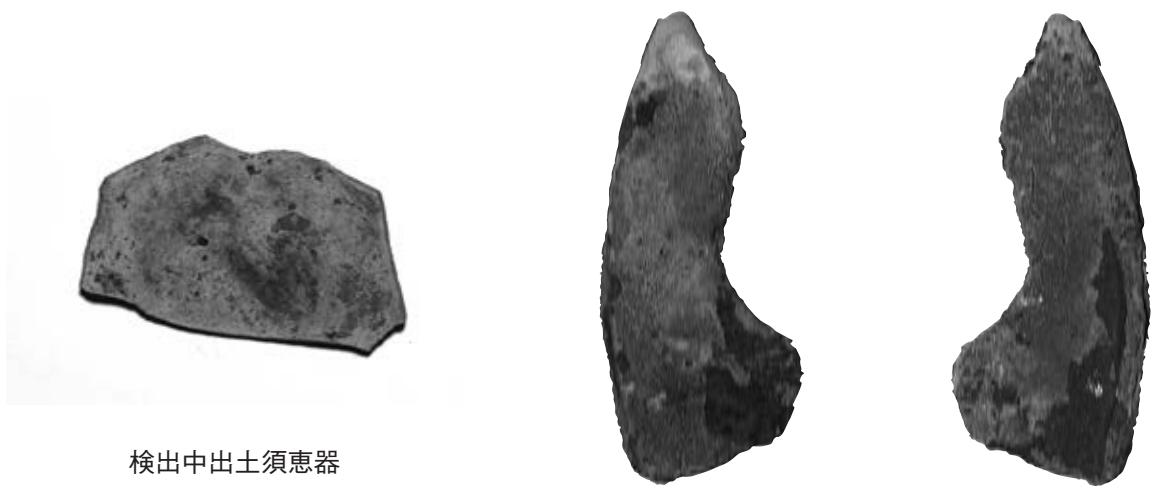
8



10



11



検出中出土須恵器

12裏

12表



北部遺構検出状況（北から）



中央部遺構検出状況（西から）



遺構完掘状況（西から）



中央部遺構検出状況（南西から）



周溝完掘状況（西から）



調査前状況（北西から）



南部遺構検出状況（南から）



遺構完掘状況（北から）



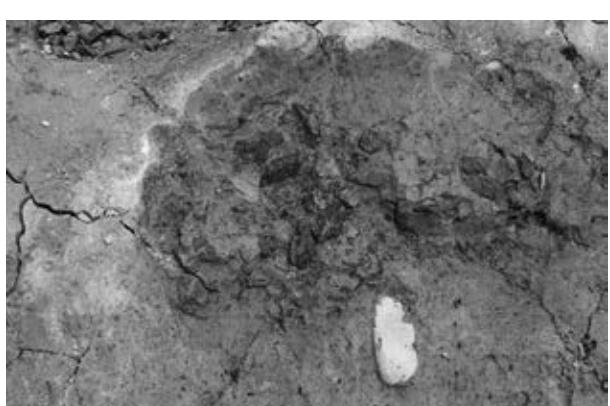
遺構完掘状況（南から）



溝断面状況（南西から）



道路横拡張部検出状況（東から）



溝内遺物出土状況



道路横拡張部完掘状況（東から）

# 報告書抄録

ふりがな	しもまがりいせき							
書名	下鈎遺跡							
副書名	令和3年度1次調査							
卷次								
シリーズ名	栗東市文化財調査報告書							
シリーズ番号	第183冊							
編著者名	藤岡英礼（栗東市教育委員会）遠藤あゆむ（栗東市スポーツ協会）							
編集・発行機関 所 在 地	栗東市教育委員会 滋賀県栗東市安養寺3丁目1-1  公益財団法人栗東市スポーツ協会 文化財調査課 滋賀県栗東市下戸山47 栗東市出土文化財センター内							
発行年月日	2022年（令和4）2月4日							
ふりがな 所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	現地調査期間	調査面積	調査原因
		市町	遺跡番号					
しもまがり 下鈎	滋賀県栗東市 かりはら 苅原 83番	208	95	35° 3' 40"	135° 97' 67"	令和3年4月26日 ～ 令和4年2月4日	591.24m <sup>2</sup>	宅地造成 建設工事
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
しもまがり 下鈎 2021R095-01	集落	弥生時代 古墳時代 鎌倉時代	溝 ピット 周溝付建物跡	弥生土器 須恵器 黒色土器				
要約	弥生時代の建物の周溝部分とみられる溝とピットを検出							

栗東市文化財調査報告書183冊

## 下鈎遺跡

2022年（令和4）2月4日

編集・発行 栗東市教育委員会

〒520-3015 滋賀県栗東市安養寺3丁目1-1

電話 077-553-0131 FAX 077-552-5544

公益財団法人栗東市スポーツ協会

〒520-3011 滋賀県栗東市下戸山47番地

栗東市出土文化財センター内

電話 077-553-3359 FAX 077-552-3514

印刷・製本 株式会社スマイ印刷



東京市文部省調査委員会報告書

渋谷区東京市

令和元年第一次調査

2019年2月

東京市教育委員会・公益財團法人東京市スポーツ協会